

日本の含み資産

女性の活躍支援

4



多数国間投資保証機関 長官 小林 いずみ

2008年に米国の住宅ローン市場から発した金融危機は瞬く間に世界中に波及し、金融市場にとどまらず先進国、開発途上国の経済発展を大きく後退させている。遅まきながら、この危機の拡大を見、我々は経済のグローバル化がいかに進展してきたかを体験したのである。

経済のグローバル化とは単に物の輸出入が活発になるということではない。お金も同時に世界を駆け巡っている。株主は経営者とその従業員に企業に属する全ての資源の最大活用を期待している。今回の危機のひとつの問題は極端に短期的な投資収益を株

主が期待してきたことも一因であると考ええる。しかしこれに限らず持っている企業資産・資源をフルに活用し、長・短バランスの取れた安定した収益を継続することは一般株主を持つ企業の使命である。「一人は企業の資産である。」

女性の活用はCSRか？女性の活用は社会的責任と位置づけられる根拠とはなんだろう？女性活用への施策が世界各国で活発になってきているが、実際にその活動が実を結んでいる企業では女性の活用は業務運営の一部として行われている。性別の問題ではない。性別の問題ではない。性別の問題ではない。

力の最大限に活用し、生産性を向上することに努めること。女性職員の活用が推進され、採用においても性別による差ではなく、個人の能力により採用の決定がなされることとなる。潜在能力の判定には現在の人口減少を止めなければならない。女性が働くことにおいて、出産による退職の

高い労働者を確保すること。日本経済の発展に寄与すること。性別による優劣の先入観は①を大きく阻害する。また、一国の経済規模とは人口に比例している。②の課題を解決するには現在の人口減少を止めなければならない。女性が働く

容易でないことは万人が周知していることである。が、これを解決しなければ企業の継続も日本の存続も危ぶまれる事態となる。質の高い労働者を長期的に確保することは直接的な企業の利益である。人口が増え購買力が高まるということは企業にとって間接的な利益である。結果どちらも企業の長期的な利益の源となる。女性の活用をCSRとしている企業は、長期的企業戦略に則り女性活用の位置づけを再考すべきである。どうやって二つの課題を解決するのか真剣に考えなければならぬ。

女性の活用はCSRではない

女性の活用は私が社会人になった頃と比較すれば格段に進化したといえる。特に最近トップ自ら旗を振って女性の活用を働きかける企業も多

女性の活用を社会的責任と位置づける根拠とはなんだろう？女性活用への施策が世界各国で活発になってきているが、実際にその活動が実を結んでいる企業では女性の活用は業務運営の一部として行われている。性別の問題ではない。性別の問題ではない。性別の問題ではない。

可能性が女性の能力のマンナと出生率が下がるといって、人口減少国である日本企業がその活動を継続していかなくては二つの課題に向き合

を確保し同時に将来の人口を増やすには女性が働きながら子どもを出産し、育てることが求められる。労働力を確保し同時に将来の人口を増やすには女性が働きながら子どもを出産し、育てることが求められる。労働力を確保し同時に将来の人口を増やすには女性が働きながら子どもを出産し、育てることが求められる。

ワーキングウーマン・パワーアップ会議代表幹事